

平成30年度いしかわ道徳教育推進事業

道徳教育推進校 和倉小学校今年度の取組

1 取組の成果のポイント

- ・導入時ICTを活用したアンケート結果の提示, 繰り返し発問等にわくたま博士の登場を行ったことで, 児童が自分ごととして課題を捉え議論する姿が見られた。
- ・グループでの学び合いを実践し, 自己の考えと友達のを比較・関連付けていく授業展開により, 対話が活性化した。
- ・ゲストティーチャーの積極的な活用により, 児童が自己の変容や成長に気付くことができた。
- ・振り返りでは発達段階に応じて学びの実感を記述できるように, 小中で連携した振り返りシートを作成した。小中が同一の観点で, 授業での変容を見とって評価につなげた。

2 研究主題

主体的に学び, お互いに認め合う子をめざして
～自他を大切に作る取組を通して～

3 研究主題設定の理由

昨年度の4月の全国学力・学習状況調査の質問紙調査での「自分には, よい所があると思いますか」では, 否定的回答が35.3%で, 全国平均の21.9%に比べると10%以上高い。1月に再度実施した質問紙調査での結果はほぼ横ばいで依然として課題は残った。そこで, 今年度の学校研究の主題を「主体的に学び, お互いに認め合う子をめざして」と設定し, 学びに向かう力を育てていくための指導方法の工夫・改善を図る。また, 副題として「自他を大切に作る取組を通して」とし, 道徳の授業を中心として, 本校で低い自尊感情の向上や友だちとの温かい人間関係を育む環境づくりに努める。

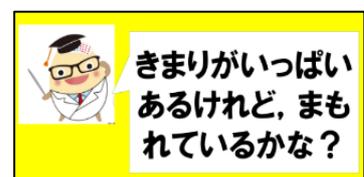
4 研究の概要及び特色

学校研究の中心に道徳科を位置づけ, 学校・学年の実態に応じた重点項目を「節度, 節制」「個性の伸長」とし, 年間指導計画, 別葉を作成し, 教育活動全体での研究推進を行った。

(1) 授業づくり

①重点1 発問の工夫

- ・「わくたま博士」の登場
児童が教材から自分ごとと関連付けて考えるために「道徳的価値に迫る発問」「児童が考え立ち止まって考えるゆさぶりタイプの発問」, 「児童の気づきを促すヒントタイプの発問」を工夫した。



【わくたまはかせからの発問】

②重点2 学び合い

- ・ 役割演技や動作化，具体物の提示
児童が登場人物の気持ちを理解することができ，友達同士考えの交流や気持ちの深まりが生まれるとともに，友達の考えを認める場にもつながった。
- ・ ペアやグループトークで学び合い
考えを一つに集約するのではなく，共感的に認め合うような話し合いを行うことで，自他を大切にする心や互いの考えを認め合う姿が見られた。また学び合いの場面では，フィルム付ボードを活用した。多様な考えの表出，共通点や相違点の明確化，多面的・多角的な議論につながった。

【ボードを使った話し合い】



【役割演技】



③重点3 学びの実感

- ・ ICTの活用

導入と終末で意識や考えの変容を視覚化するために，児童の意識調査の提示に大型モニターを使用した。授業の終末では児童の変容を共有するために，無記名で自分の意見を提示する配慮を行った。



【児童が一人ずつタブレットを使用】



【結果を大型モニターで提示】

- ・ 道徳的価値に迫る構造的な板書

児童の考え深まりや変容を視覚化する板書となるために，授業者が授業のゴールイメージをしっかりと持ち，教材研究を行った。



【構造的な板書】



【地域のゲストティーチャー】

- ・ ゲストティーチャーの活用

45分間の授業の中で，ゲストティーチャーを有効に活用するために，事前の打合せをしっかりと行った。地域の方や保護者からの説話や手紙，ビデオレターを活用することで，児童は色々な人と関わることができ，地域や家族に対しての新しい発見につながったり，自分ごととして考えたりする場になった。

(2) 評価の工夫

- ・ 小中共通の振り返りシートの活用

小中の学びをつなぐために，中学校とは3つの視点（①同一の振り返りの観点とする②児童が短時間で自己評価できる③ねらいに迫る内容項目をキーワードとして記述する）で振り返りシートを記述するように共通理解をした。

ねらいに迫る
キーワード

キーワード	新しく分かったことや考えが深まったこと
働くことの 幸せ	どんな仕事でも大変なことや、苦しいことはあ るかもしれないけど、自分のしている仕事で、人の役に 立つことができた。たまたまのしが笑顔になっ て、自分もうれしくなったり楽しくなったりするから。 仕事は、人々を幸せにすることは、自分も幸せになる。

同一の観点

<今日の授業を振り返って>	とても	できた	もう少し
1 自分の考えをもつことができたか	(とても)	できた	もう少し
2 自分の考えと友だちの考えを比べ、自分の考えを広げたり、深めたりできたか	(とても)	できた	もう少し
3 自分を振り返ったり、これからの生き方について考えたりすることができたか	(とても)	できた	もう少し

【小中共通の振り返りシート】

・振り返りシートのファイリング

児童の成長を継続的に見取るために、授業で使ったワークシートや振り返りシートをファイリングした。グループボードの写真、友だち保護者からのメッセージなども蓄積したことで、担任の授業改善にもつながった。



【評価のファイリング】

(3) 環境づくり

・「今日のナイスさん」の紹介

児童の「個性の伸長」につながるように、各学級で終礼時にすてきな人を紹介しあう「今日のナイスさん」を行った。友達の良いところに気付くとともに、自分の良いところにも気付くことができた。



【ナイスさん紹介】

・「ありがとうの木」の掲示

縦割り班活動などで知り合った異学年の友だちに、感謝のメッセージを贈る「ありがとうの木」に取り組んだ。同学年・異学年で温かい人間関係を育むことができた。



【ありがとうの木】

・「思いやり挨拶」の奨励

他者を大切にする心を育てるために、立ち止まって目を見て行う「思いやりあいさつ」を実践し、自ら進んで挨拶運動に参加する児童も増えた。



【思いやりあいさつ】

(4) 小中連携の取組

- ・振り返りシートの作成
- ・金沢工業大学 教授 白木みどり先生を招聘しての示範授業
- ・能登香島校区（3小学校・1中学校）合同授業研究会研修会



【白木先生
示範授業】

(5) 家庭・地域の連携

- ・地域人材の発掘・人材活用
- ・道徳だよりを通して保護者へ発信
- ・保護者対象の道徳授業参観



【道徳だより】

5 研究の評価

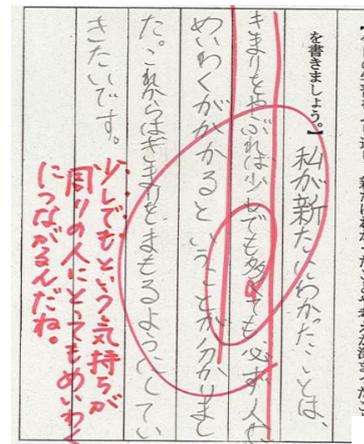
(1) 研究の成果

【研究課題Ⅰ】

学校・学年の実態に応じた重点項目を「節度、節制」「個性の伸長」とし、教育活動全体での研究推進を行った。他教科や学校行事の取組を別葉に記入したり、行事ごとに振り返りを行ったりしたことで、道徳アンケート「自分にはよいところがある」の項目が80%（4月）から84%（12月）へと向上した。

【研究課題Ⅱ】

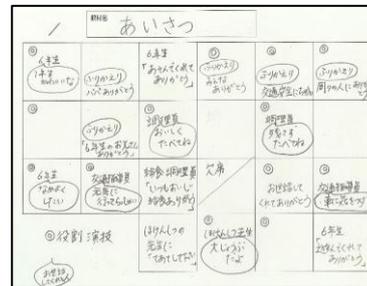
ペアやグループトーク、フィルム付ボードを活用した話し合い活動を授業に組み込んだことで「グループでの話し合いから自己の考えをもたせていく」ことができ、児童同士の対話が活性化した。また、自他を大切にする心や互いの考えを認め合う姿が見られるようになり、「友だちのよいところを見つけようとしている」の項目が88%（4月）から96%（12月）へと向上した。学びの実感では、右の振り返りシートのように、学習後の新たな気付きを書ける児童が増えた。



【変容が見られる振り返りシート】

【研究課題Ⅲ】

児童の自己評価となる振り返りシートだけでなく座席表を活用した教師評価を行った。児童と教師の評価のずれに気付くことで、教師自身の評価の向上にもつながった。また、授業内での児童の変容を見取ることで、次の学びにもつなげることができた。



【座席表を用いて授業中の児童の変容を見取る】

(2) 今後の課題と予定している取組

- ・「授業で自分の意見や考えを書いたり話したりしていますか」という質問に否定的回答が15%（12月）ある。そこで、多様な考えを生かす言語活動の活性化のために、児童同士が意欲的に考えを伝え合ったり、自分の考えを記述したりする時間の確保が必要だと考える。学び合いの時間が確保されるよう、タイムマネジメントをしっかりと行っていきたい。
- ・評価について、小中連携の振り返りシートのさらなる改善が必要である。発達段階に合わせた有効な振り返りシートを作成し、能登香島校区にある3つの小学校と1つの中学校の連携を進めていきたい。

6 参照できるホームページアドレス

http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~wakure/NC2/htdocs/?page_id=13